

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④ 年度	学 期	⑥
年 次	⑤ 年次	授業回数	⑦ 回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑩		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

授業科目名	健康科学		
実務経験講師	○	実務経験	管理栄養士
開 講 年 度	2022 年度	学 期	後期
年 次	4 年次	授 業 回 数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	健康寿命を延ばすための運動や食事、睡眠についての知識を養う科目です。		
授業科目の到達目標	自分自身の健康維持・増進のための積極的な取り組みが習得できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	健康の意義 健康施策	講義	
2	健康な食生活の実践	講義	
3	食生活の見直し	講義	
4	メタボリックシンドローム	講義	
5	健康の基礎知識 1 グループワーク課題提示	講義・グループワーク	
6	健康の基礎知識 2	講義・グループワーク	
7	健康の基礎知識 3	講義・グループワーク	
8	歯の健康	講義・グループワーク	
9	フレイル 1	講義・グループワーク	
10	フレイル 2	講義・グループワーク	
11	フレイル 3	講義・グループワーク	
12	健康維持・増進のための運動	講義・グループワーク	
13	健康維持・増進のための食事	講義・グループワーク	
14	健康維持・増進のための休養	講義・グループワーク	
15	グループワーク発表、総評、振り返り	発表	

使用テキスト	「フレイル」超高齢化社会における重要課題と予防戦略 医歯薬出版
参考書・資料 等	「社会・環境と食事」 第一出版
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	レポート課題（30%）・グループワーク貢献度（30%）・発表（40%） 医療従事者として健康を維持・増進するための実践努力の成果（自己評価）も含め、評価します。 レポート課題とともにグループワークへの貢献度についても評価します。
その他 受講生への要望等	

授業科目名	管理運営研究論		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	4 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	作業療法士として臨床に出た際、さまざまな場面で症例検討・発表する機会がある。そのため、作業療法士としてどのような研究を行うことができるのか、またどのように発表するのかを知る。さらに、臨床においては、物品・部門・人などをマネジメントする機会もあると考えられる。そのマネジメントに必要な技術や知識を学ぶ機会とする。		
授業科目の到達目標	1. 作業療法で実施する研究についての基礎を身に付ける。 2. 作業療法部門の管理・運営についての基礎知識を学ぶ。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	卒業研究の書き方について	講義	
2	作業療法における研究・研究法について 1	講義	
3	作業療法における研究・研究法について 2	講義	
4	作業療法の管理・運営 1（身障領域）	講義	
5	作業療法の管理・運営 2（身障領域）	講義	
6	作業療法の管理・運営 3（リスクマネジメント）	講義	
7	作業療法の管理・運営 4（精神保健領域）	講義	
8	作業療法の管理・運営 5（福祉領域）	講義	
9	作業療法部門の管理について（労基法） 1	講義	
10	作業療法部門の管理について（労基法） 2	講義	
11	研究の発表について 1	講義	
12	研究の発表について 2	講義	
13	臨床からのメッセージ 1（身体障害領域）	講義	
14	臨床からのメッセージ 2（精神障害領域）	講義	
15	管理運営についてのまとめ	講義	

使用テキスト	特に指定しない
参考書・資料 等	特になし
この授業科目の前提となる主な科目	地域作業療法学Ⅰ・Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	卒業研究

成績評価の方法	1) 出席状況
その他 受講生への要望等	働いていく中で必要となる知識や技術になります。しっかり学んで下さい。

授業科目名	地域作業療法学Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士 他
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	4 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	①地域リハビリテーションにおける歴史・制度・システムを理解する。 ②地域包括ケアに向けたこれからの医療や介護サービスの変化・現状を知る。 ③リハビリ専門職に係わる業務について知り、それを役立てるシステム等について考え・学ぶ。		
授業科目の到達目標	① 地域包括ケアとリハビリテーションについてシステムを理解する。 ② 精神障がい者の地域生活支援について理解する。 ③ 障がい者スポーツを学び実際に体験する。 ④ 在宅分野での PT・OT の実際について学ぶ。 ⑤ 自分のなりたい PT・OT 像を踏まえグループワークができ、発表ができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題	開講日
1	地域包括ケアとリハビリテーション 1	講義		10/13
2	地域包括ケアとリハビリテーション 2	講義		10/13
3	地域包括ケアとリハビリテーション 3	講義		10/20
4	地域包括ケアとリハビリテーション 4	講義		10/20
5	地域包括ケアとリハビリテーション 5	講義		10/27
6	地域包括ケアとリハビリテーション 6	講義		10/27
7	在宅分野での PT・OT の実際	講義		11/25
8	在宅分野での PT・OT の実際	講義		11/25
9	地域包括ケアにおける PT・OT の役割 ～市町村の立場から～	講義		11/10
10	精神障がい者の地域生活支援	講義		
11	地域を知り、関係性を繋ぐ支援を考える	講義・演習		
12	障がい者スポーツ支援活動について	講義・演習		
13	障がい者スポーツ支援活動について	講義・演習		
14	地域で活躍する専門職の役割 ～多職種連携活動を通じて～	演習		
15	回復と成長につなぐコミュニケーション	講義・演習		

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	1) 地域リハビリテーション論 太田仁史著 三輪書店

	2) 地域リハビリテーション学テキスト 和田多穂監修 南江堂 3) 訪問リハビリテーション実践テキスト 全国訪問リハビリテーション研究会編
この授業科目の前提となる主な科目	精神医学 評価実習 臨床実習
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	1) レポート 2) 出席
その他 受講生への要望等	

授業科目名	臨床実習		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	4 年次	授業回数	1 週 45 時間×9 週間×2 期
単 位 数	18 単位	単位時間数	810 時間
授業科目の概要	臨床実習指導者のスーパーバイズのもと、作業療法評価ならびに治療について体系的に習得する。		
授業科目の到達目標	①臨床実習に対しての目標を設定できる。 ②臨場実習指導者監督下にて評価ならびに治療の計画・実施・振り返りができる。 ③実習経験についてデイリーノート・ケースノートにまとめ提出できる。 ④実習経験について要点をまとめた報告書（レジュメ）を提出できる。 ⑤実習経験について知識・技術（技能）・態度の 3 側面から振り返ることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	臨床実習Ⅰ（9 週間）	実習	
2	臨床実習Ⅱ（9 週間）	実習	

使用テキスト	特になし
参考書・資料 等	特になし
この授業科目の前提となる主な科目	3 年次までのすべての科目（特に作業療法専門科目、評価実習）
この授業科目から発展する主な科目	4 年次臨床実習セミナー、卒業研究
成績評価の方法	臨床実習Ⅰ・Ⅱの総合評定
その他 受講生への要望等	作業療法士を目指す上で必要な経験となります。積極的な態度で臨んでください。

授業科目名	臨床実習セミナー		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	4 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	臨床実習の各期終了時に学内セミナーを実施し、各自の症例について全員と分かち合うことで、次期の実習や今後に活かす。		
授業科目の到達目標	①実習経験について、要点をまとめたレジュメを提出できる。 ②実習経験について、要点をまとめ発表できる。 ③実習経験について、意見交換ができる。 ④発表症例に対して、治療プログラムの振り返りができる。 ⑤発表症例に対して、多方面から治療プログラムを検討できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	評価実習の振り返り	意見交換	
2～5	症例検討会：身体障害分野（1 期目）	症例検討会	
6～9	症例検討会：精神保健分野（1 期目）	症例検討会	
10～12	症例検討会：身体障害分野（2 期目）	症例検討会	
13～15	症例検討会：精神障害分野（2 期目）	症例検討会	

使用テキスト	特に指定なし
参考書・資料 等	特になし
この授業科目の前提となる主な科目	3 年時後期までのすべての科目（特に作業療法専門科目）
この授業科目から発展する主な科目	卒業研究
成績評価の方法	レジュメ提出・内容、発表ならびに質疑応答の内容
その他 受講生への要望等	実習経験者同士の意見交換をもとに症例検討会は行われます。積極的に参加を望みます。

授業科目名	栄養学		
実務経験講師	○	実務経験	管理栄養士
開 講 年 度	2022 年度	学 期	後期
年 次	4 年次	授 業 回 数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30
授業科目の概要	①栄養素とその働きについて基礎知識を学ぶ。 ②リハビリテーション栄養について、症例検討を通して理解を深める。		
授業科目の到達目標	①自分自身の健康維持・増進に反映できる食生活について理解し、対象者の健康状態に合わせたワンポイントアドバイスができるようになることを目標とする。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	ガイダンス 管理栄養士とは？	講義	
2	栄養とは？ 栄養素について	講義	
3,4	ライフステージにおける栄養 1 症例発表	講義・グループワーク	
5	リハビリテーション栄養 1	講義・グループワーク	
6	栄養素の働き 1	講義・グループワーク	
7	栄養素の働き 2	講義・グループワーク	
8	栄養素の働き 3	講義・グループワーク	
9	リハビリテーション栄養ケアマネジメント	講義・グループワーク	
10	リハビリテーション栄養ケアプラン	講義・グループワーク	
11	リハビリテーション計画立案 1	講義・グループワーク	
12	リハビリテーション計画立案 2	講義・グループワーク	
13	リハビリテーション計画立案 3	講義・グループワーク	
14	主な疾患のリハビリテーション栄養	講義・グループワーク	
15	リハビリテーション計画発表 総評	発表	

使用テキスト	PT・OT・ST のためのリハビリテーション栄養第 2 版 栄養ケアがリハを変える 医歯薬出版
参考書・資料 等	臨床栄養 メディカ出版
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	レポート課題 (30%)・グループ発表 (50%)・グループワーク貢献度 (20%) 臨地実習のときに出会った患者様一人ひとりを思い出し、それぞれの患者様にあった具体的な支援策を立案できるかを評価します。
その他 受講生への要望等	リハビリテーション計画立案を通して、在宅介護サービス利用者への理解を深めて欲しいです。 授業内容の変更の可能性があります。ご理解ください。

授業科目名	基礎知識の統合		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	4 年次	授業回数	60 回
単 位 数	8 単位	単位時間数	120 時間
授業科目の概要	この授業は、国家試験に向けてこれまでの授業・演習・実習等で学んだ知識や技術を統合整理し、作業療法士として臨床に望むべく、各々の定着を図ることを目的に行う。		
授業科目の到達目標	過去国家試験（以下の科目）について解説を交えながら回答し、第三者に説明することができる。 ・基礎医学科目（解剖学，生理学，運動学） ・臨床医学科目（人間発達学・小児科学，内科学，臨床神経学，臨床心理学，精神医学，整形外科学，リハビリテーション概論） ・専門科目（作業活動，作業療法概論，評価法，ADL，義肢装具，老年期障害，脳血管障害，神経変性・筋障害，内科学，脊髄損傷，関節リウマチ・整形外科疾患・精神障害・小児科学）		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	オリエンテーション 国家試験までのスケジュールリング	講義	
2～58	アチーブメントテスト	演習	確認試験
59	中間試験		試験
60	期末試験		試験

使用テキスト	1) クエスチョンバンク理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題 メディックメディア 2) クエスチョンバンク理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 専門問題 メディックメディア		
参考書・資料 等	1) PT・OT 基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編 南江堂 2) PT・OT 基礎固め ヒント式トレーニング 臨床医学編 南江堂		
この授業科目の前提となる主な科目	4 年間学んできた全ての科目		
この授業科目から発展する主な科目	なし		
成績評価の方法	中間試験（50％） 期末試験（50％）		
その他 受講生への要望等	国家試験合格に向けての国家試験対策の授業です。1 回 1 回の授業を大切に蓄積していきましょう		

授業科目名	卒業研究		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	4 年次	授業回数	60 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	120 時間
授業科目の概要	今後の臨床活動を踏まえて、これまでの知識や技術を最大限に活かし、卒業論文として総括する。		
授業科目の到達目標	・学習経験や臨床実習等の経験に基づき、その成果を主体的にまとめることができる。 ・まとめた卒業論文を適切な技術（挨拶、課題内容の分かりやすさ、発声の明瞭さ、抑揚、視線、ジェスチャーなど）を用いて、発表することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1～56	文献検索、卒業研究作成、 担当教員からのフィードバック 等	担当指導教員のもと、各々、 適宜フィードバックを受け、 卒業研究をまとめる	
57～60	卒業研究発表会		課題：卒業研究論文 の提出・発表

使用テキスト	特に指定しない
参考書・資料 等	適宜紹介する
この授業科目の前提となる主な科目	臨床実習を主とした全教科
この授業科目から発展する主な科目	なし
成績評価の方法	研究レポートの完成提出・発表試験等による
その他 受講生への要望等	4 年間の学習の集大成として、主体的に研究に臨んでください。自身の経験に基づく、疑問点や課題点に一步踏み込む機会となるよう取り組んでください。卒業研究の経験が、卒後の継続的な学習や研究につながることを期待します。